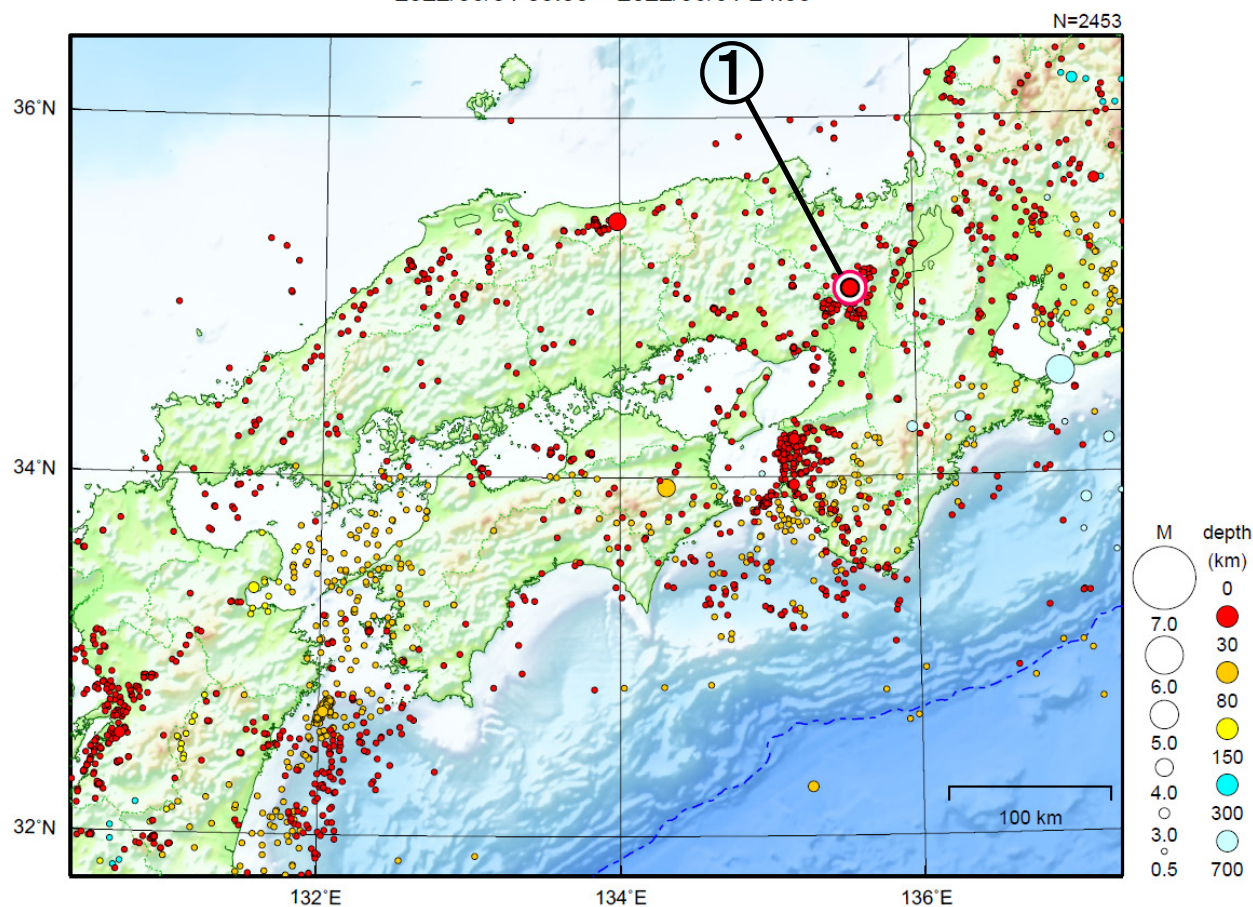


近畿・中国・四国地方

2022/05/01 00:00 ~ 2022/05/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

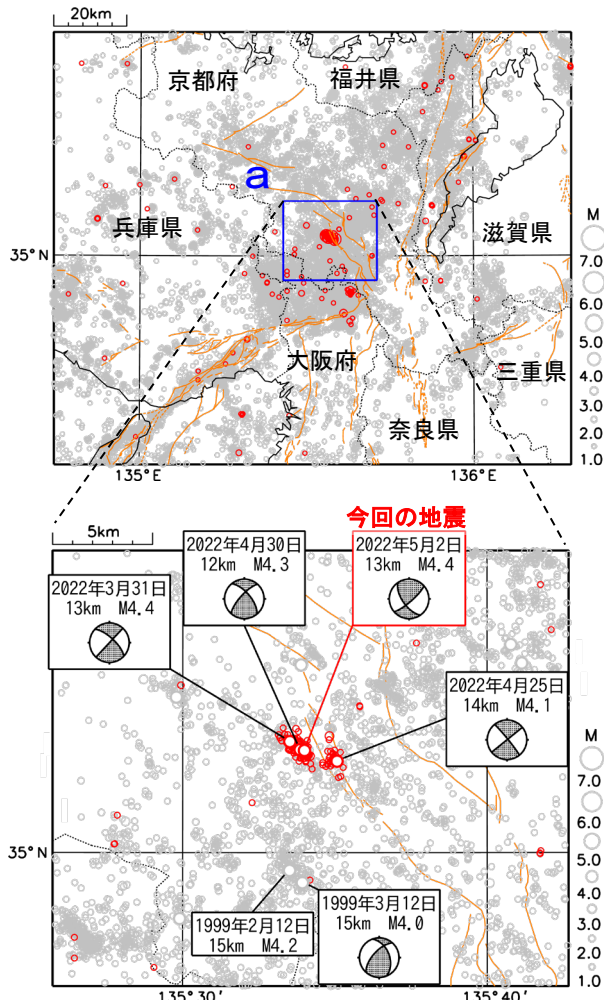
- ① 京都府南部では5月中に最大震度1以上を観測した地震が7回（震度4：1回、震度2：1回、震度1：5回）発生した。このうち2日の M4.4 の地震により最大震度4を観測した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

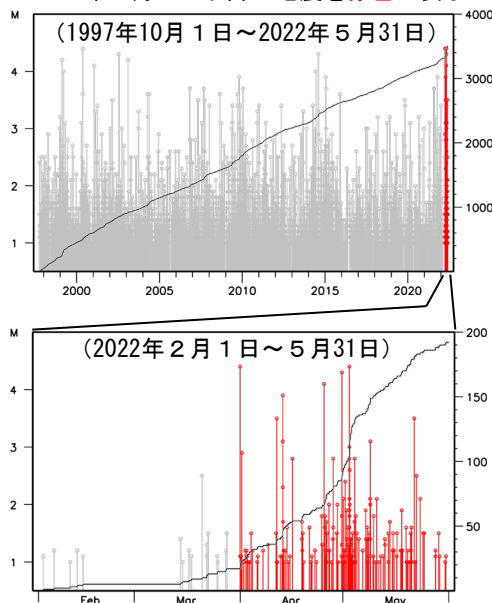
気象庁・文部科学省

5月2日 京都府南部の地震（3月31日からの地震活動）

震央分布図
(1997年10月1日～2022年5月31日、
深さ0～20km、 $M \geq 1.0$)
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示



領域a内のM-T図及び回数積算図
2022年3月31日以降の地震を赤色で表示

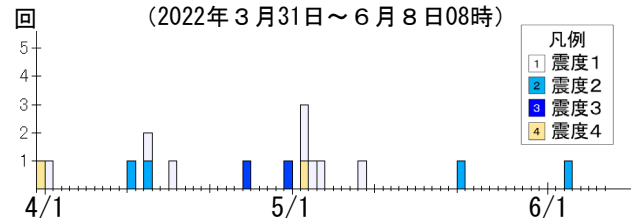


2022年5月2日22時21分に京都府南部の深さ13kmでM4.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。京都府南部では、2022年3月31日から地震活動が活発となり、6月8日08時までに震度1以上を観測する地震が16回（震度4：2回、震度3：2回、震度2：4回、震度1：8回）発生するなど、消長を繰り返しながら地震活動は継続している。このうちM4.0以上の地震は4回発生しており、最大規模の地震は、3月31日に深さ13kmで発生したM4.4の地震及び今回の地震（ともに最大震度4）であった。これらの地震の震央付近（領域a）を拡大してみると、3月31日以降に発生した地震の震源の多くは西北西－東南東方向に分布してみえる。

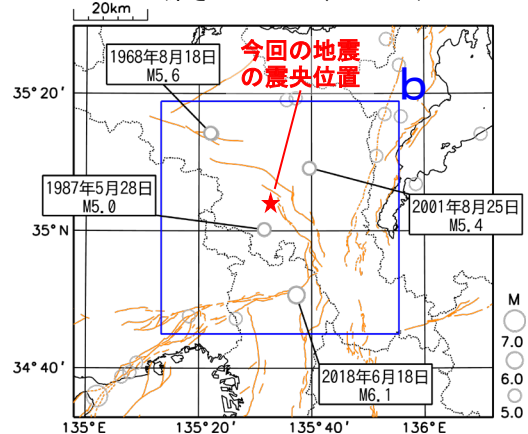
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M4.0程度の地震が時々発生している。このうち今回の活動のように、1ヶ月ほどの期間内にM4.0を超える地震が複数回発生するような活動は、今回の活動域のやや南側でも1999年2月から3月にかけて発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M5.0以上の地震も発生しており、2018年6月18日には大阪府北部の地震（M6.1）が発生し、死者6人、負傷者462人などの被害が発生した（2019年4月1日現在、総務省消防庁による）。

震度1以上の日別最大震度別地震回数図
(2022年3月31日～6月8日08時)



震央分布図
(1919年1月～2022年5月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



震央分布図中の橙色の実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

気象庁作成